

ビワ生育情報

第 1 0 報
千葉県農林水産部
令和 7 年 7 月号

本年は着花房率が平年より高く、寒害の発生は少ない年でした。一方で、ほ場や品種によっては、高温障害(紫斑症)や裂果の発生が多くみられました。また、出蕾のばらつきや開花の遅れにより、4月1日時点では果実の発育が遅れていましたが、4月以降は気温が高く推移したため、収穫期は平年並みとなりました。一方で、果実の大きさは品種やほ場等によって、ばらつきがみられました。

1 本年度産果実の特徴

(1) 収穫期

収穫期を表1に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が5月21日、5月26日、6月1日、「大房」が6月1日、6月6日、6月9日、「田中」が6月6日、6月11日、6月16日であった。収穫盛期は「楠」は平年より5日早く、「大房」、「田中」は平年並みであった。また、3品種とも収穫盛期が前年より8～13日遅かった。

表1 収穫期(暖地園芸研究所)

品 種	収穫始期(月. 日)			収穫盛期(月. 日)			収穫終期(月. 日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5. 21	5. 26	5. 14	5. 26	5. 31	5. 18	6. 1	6. 4	5. 24
大 房	6. 1	6. 1	5. 24	6. 6	6. 5	5. 29	6. 9	6. 9	6. 1
田 中	6. 6	6. 9	5. 27	6. 11	6. 12	5. 29	6. 16	6. 17	6. 3

平年：平成7年～令和6年の平均

(2) 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさと品質を表2、3に示した。果重は「楠」が50g、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ73g、70gであり、「楠」は平年の96%、「大房」は93%、「田中」は95%であった。

横径は「楠」が4.4cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ5.1cm、4.8cmであり、3品種とも平年並みであった。縦径は「楠」は4.7cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ5.4cmであり、3品種とも平年並みであった。

果形指数は「楠」が0.92、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.95、0.89であり、3品種とも平年並みであった。

本年は着花房率が平年より高く、寒害の発生は少なかった。また、果樹カメムシ類及び鳥類による被害が前年より少なかったため、収穫量は前年より多かった。一方で、果実の大きさは品種やほ場等によって、ばらつきがみられた。

(3) 果実品質

糖度は「楠」が12.4、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ11.0、11.5で、3品種とも平年並みだった。

酸度は「楠」が0.25、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.23、0.34で、3品種とも平年より高かった。

果肉硬度は「楠」が0.48、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.54、0.47で、3品種とも平年より低かった。

糖酸比は「楠」が49、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ51、34で、3品種とも平年より低かった。

(4) 病害虫及び生理障害の発生

本年は、果樹カメムシ類の飛来数及び果実への被害が平年より少なかった。また、品種やほ場によっては高温障害（紫斑症）や裂果が多く発生した。

表2 果実の大きさ

品 種	調査地点	果 重(g)			横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大 房	楠 暖地園研	50	52	49	4.4	4.5	4.3	4.7	4.8	4.8	0.92	0.94	0.90
	青 木	62	75	77	4.9	5.2	5.1	5.0	5.3	5.3	0.97	0.98	0.96
	南 無 谷	79	78	97	5.2	5.2	5.5	5.6	5.4	5.7	0.93	0.97	0.97
	暖地園研	79	82	94	5.3	5.3	5.5	5.5	5.5	5.6	0.96	0.97	0.98
	平 均	73	79	89	5.1	5.2	5.4	5.4	5.4	5.6	0.95	0.97	0.97
田 中	青 木	60	71	63	4.6	4.9	4.7	5.2	5.4	5.0	0.89	0.92	0.94
	南 無 谷	69	71	68	4.7	4.9	4.7	5.3	5.5	5.5	0.88	0.90	0.85
	暖地園研	80	77	80	5.1	5.1	5.1	5.7	5.5	5.8	0.90	0.92	0.87
	平 均	70	73	70	4.8	5.0	4.8	5.4	5.5	5.5	0.89	0.91	0.88

果形指数：横径／縦径

平均：3地区の平均値で平年値は平成7年～令和6年の平均

表3 果実品質

品 種	調査地点	糖度(Brix%)			酸度(g/100ml)			硬 度(kg)			糖酸比		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大 房	楠 暖地園研	12.4	12.5	13.4	0.25	0.15	0.20	0.48	0.52	0.52	49	90	67
	青 木	11.9	10.9	11.0	0.22	0.15	0.19	0.52	0.56	0.57	55	78	59
	南 無 谷	10.0	10.8	10.5	0.32	0.17	0.15	0.56	0.57	0.54	31	69	69
	暖地園研	11.2	11.4	11.2	0.16	0.19	0.16	0.54	0.58	0.56	68	64	69
	平 均	11.0	11.0	10.9	0.23	0.17	0.17	0.54	0.57	0.56	51	70	66
田 中	青 木	11.9	11.2	11.2	0.31	0.31	0.30	0.48	0.55	0.47	38	40	37
	南 無 谷	10.9	10.5	11.0	0.36	0.31	0.36	0.44	0.56	0.53	31	35	30
	暖地園研	11.8	11.9	12.6	0.35	0.30	0.36	0.50	0.56	0.53	33	42	35
	平 均	11.5	11.2	11.6	0.34	0.31	0.34	0.47	0.56	0.51	34	39	34

糖度：屈折糖度計の測定値、酸度：果汁100m l中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値

硬度：果実硬度計による測定値、糖酸比：糖度／酸度

平均：3地区の平均値で平年値は平成7年～令和6年の平均(ただし硬度は平成12年～令和6年の平均)

2 最近1年間の気象及びビワの生育状況

令和6年7月～令和7年6月までの月別の気象を表4に示した。年平均気温は17.8℃で、平年より1.6℃高く、前年と同等であった。降水量は年合計1,668mmで、平年の90%、前年の86%であった。日照時間は年合計が2,270時間で、平年の114%、前年の97%であった。

出蕾のばらつきや開花の遅れにより、4月1日時点では果実の発育が遅れていたが、4月以降は気温が高く推移したため、収穫期は平年並みとなった。

表4 令和6年7月～令和7年6月の気象（アメダス館山市）

年	月	気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
R6	7	27.9	25.2	26.8	103	179	49	252	179	274
	8	28.7	26.7	28.5	238	103	113	237	216	279
	9	26.7	23.7	26.7	141	222	298	196	153	192
	10	21.3	18.6	18.8	224	258	200	128	137	202
	11	15.0	13.7	15.5	140	146	84	139	146	176
	12	9.6	8.9	10.4	5	91	46	223	164	198
R7	1	7.3	6.4	8.6	48	86	29	216	177	197
	2	6.9	7.0	9.1	31	82	106	211	155	133
	3	11.5	10.1	10.5	245	161	258	182	165	185
	4	15.5	14.5	16.6	178	156	184	174	179	133
	5	18.9	18.5	19.4	205	153	228	120	188	179
	6	24.1	21.6	22.6	113	215	356	190	135	190
平均/計		17.8	16.2	17.8	1,668	1,852	1,949	2,270	1,993	2,337

注1）平年：平成3年～令和2年までの平均

2）平均／計：平均気温（℃）は平均値、降水量（mm）及び日照時間（hr）は合計値を示す

3）表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある

8月～10月の作業

8月下旬～9月下旬はせん定及び施肥の時期となる。花芽は9月中旬頃には確認できるようになる。10月に入ると発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

（1）せん定

8月下旬～9月下旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

（2）施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり成分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園では窒素11kg、リン酸9kg、加里7kgとやや少なめにする。

（3）摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の約60%に花房を残す。

摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>